

日・ジャマイカ・パートナーシップ（Ｊ－Ｊパートナーシップ） 強化に関する共同声明 （骨子）

1 総論

- 二国間及び日・カリコム間における高いレベルでの政治対話の重要性を強調し、連携強化を確認し、海洋国家である両国共通の課題に対処し、基本的価値を共有すること及びより良い国際社会のために引き続き貢献していくことを確認。
- 多様な分野で二国間関係が深化している現状を踏まえ、将来への道筋を示す「日・ジャマイカ・パートナーシップ（Ｊ－Ｊパートナーシップ）」を強化し、安倍総理が第１回日・カリコム首脳会合（２０１４年７月）で表明した「日本の対カリコム政策」の三本柱に沿った協力の強化・促進に向け取り組むことを確認。

2 第一の柱：小島嶼開発途上国特有の脆弱性克服を含む、持続的発展に向けた協力

- 安倍総理は、日本政府が、ジャマイカを含むカリコム諸国に対して防災等の分野における新たな協力を着実に実施してきている旨を強調し、ジャマイカを含むカリコム４か国に対する省エネルギー・再生可能エネルギー分野の新たな技術協力プロジェクト実施の決定を表明。
- JICA ボランティアが、ジャマイカにおける持続可能な発展及び良好な二国間関係に引き続き重要な役割を果たすことに対する高い期待を表明。
- 日・カリコム友好協力基金を通じたより有効性の高い協力の継続を決定。

3 第二の柱：交流と友好の絆の拡大と深化

- 昨年 of 外交関係樹立５０周年における、様々なレベルでの官民による交流を評価し、相互理解及び友好の絆を更に強化していくことを確認。
- JET プログラムや若手外交官招へい等の人物交流プログラムの継続を再確認し、地方都市の参加を得た Sport for Tomorrow の取組を歓迎。上智大学と西インド諸島大学の交流覚書署名を歓迎し、更なる文化・学術・スポーツ交流の進展に期待を表明。
- 両国の遺産の世界遺産登録を歓迎し、観光分野における双方向の協力を確認。

4 第三の柱：国際社会の諸課題の解決に向けた協力

- 国連安保理改革、防災（「世界津波の日」制定支持を含む）、持続可能な開発のための２０３０アジェンダ、環境・気候変動、海における法の支配の強化、軍縮・不拡散、北朝鮮情勢等の諸課題に対する緊密な協力を継続することを確認。
- 安倍総理から、平和安全法制を含む日本の国際協調主義に基づく「積極的平和主義」を通じた世界の平和と安定への取組を説明。シンプソン＝ミラー首相はこれを歓迎。

（了）